～～ 祈りの残照 ～～
尺八古典本曲演奏会

日時：2025 年 2 月 3 日（月） 13:00
会場：東京大学 東洋文化研究所

=== プログラム ===

虚鈴
（古伝三曲）

霧海篪
（古伝三曲）

虚空
（古伝三曲）

呼返鹿遠音
（琴古流本曲）

奥州薩慈
（神保山谷）

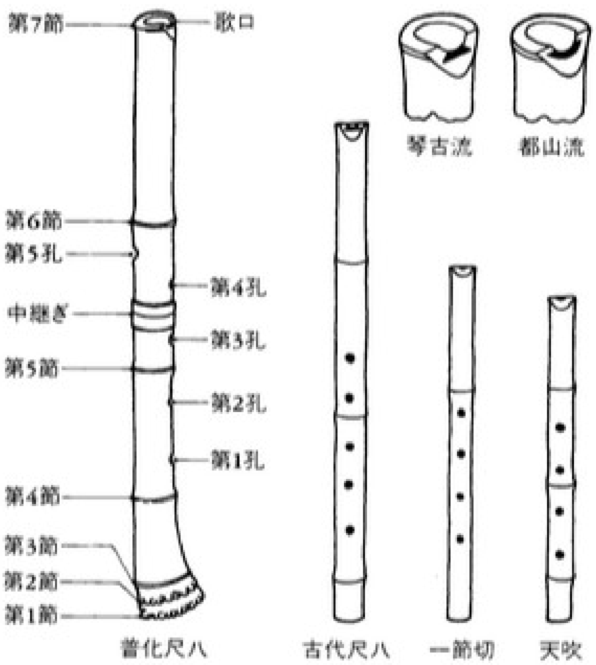
山澤昭彦：プロフィール

山形県鶴岡市出身。1946年生まれ。尺八を学生時代に青木静夫（二代青木鈴募）・横山勝也の各氏から学ぶ。ブログラム言語を使って音楽を生成する「Generative Music」のアルバムを多数制作、近年はコンピュータを使った映像作品と生成音楽を組み合わせた「実験音楽工房展」を東京などて開催したほか、尺八古典本曲の演奏や多ジャンルのミュージシャンやダンサーとのコラボレーションなど、複合的なアート活動にも取り組んでいる。

2019年「尺八と生成映像による 観音」ライブシリーズを開始
2020年「佳興の会」をプロデュース 現在も年4回の邦楽ライブを開催中
2020年「アンサンブル・チコーニア」結成 活動開始
2021年「酒井家庄内入部400年記念事業 七絃琴復興プロジェクト」代表
2022年「酒井家庄内入部400年記念事業 芸術祭参加」音楽絵巻 その2
2023年「鈴木順子×山澤昭彦 二人展 MindScape」@ 鶴岡アートフォーラム
2023年「山澤昭彦とその界隈」@ TACTおとアート2023
2024年「鈴木順子×山澤昭彦 二人展 CosmicEgg」@ 御茶ノ水 Gallery 蔵
2024年「Sa･Kura Music Week 2024」@ 御茶ノ水 Gallery 蔵

１．普化尺八とは

虚無僧尺八ともいう。現在の普通の尺八を指す。日本には古代尺八（正倉院尺八・雅楽尺八）、一節切（ひとよぎり）尺八などの同種の楽器があるが、区別の必要上これらの呼称を用いる。その由来は、この種の尺八が江戸時代には普化宗（禅宗の一派）の法器とされ，虚無僧（普化宗の僧）のみが吹奏するものとされていたためである。虚無僧は当て字で「古無僧」「菰僧」とも書いた。



尺八という名前の初出「大ひちりき・さくはちの笛などの、大声を吹きあげつつ」（出典：源氏物語 末摘花）
古無僧という名前の初出「古無僧一人、尺八を吹、我門に立たり」（出典：慶長見聞集（1614年?）巻三）



木曽海道六拾九次（歌川広重 作）



昭和職業絵尽 虚無僧（和田三造 作）
江戸東京博物館デジタルアーカイブス

２．問題提起・歴史年表

◎ 江戸時代、多くの虚無僧・虚無僧寺が存在した

◎ 普化尺八に関しては歴史的資料がほとんど存在しない

– 唯一の資料「虚鐸伝記」は伝説に近く信憑性に疑問がある

– 普化宗は禅宗の一派とされるが仏教としての実態がない

◎ 普化尺八の成立時期は江戸初期と思われる

– この時期はキリスト教が日本に伝わり、その後禁教になった時期と重なる

– キリスト教が禁教になった後も、多くの隠れキリシタンが存在した

– キリシタンが生き残る唯一の方法は、仏教徒を偽装することだったのでは

– 虚無僧尺八の音楽は、伝統的な日本音楽としては異質

◎ 日本ではアカデミックで学際的な研究がなされていないのではないか

1549 年 ザビエルが鹿児島に来航キリスト教を伝える

1580 年 有馬・安土にセミナリオ創立

1582年 天正少年遣欧使節 出発

1587年 豊臣秀吉 伴天連追放令発布

1590年 天正少年遣欧使節 帰国

1597年 長崎で26名が殉教

1603年 徳川家康 江戸幕府開府

1612年 江戸幕府が禁教令を天領に布告

1613年 崇伝(臨済宗) 伴天連追放文を起草

1614年 慶長之掟書（実物は存在しない）

1615年 大坂冬の陣

1622年 元和の大殉教

1628年 虚無宗教団が全国で十六派を数える

1637年 島原の乱

1644年 最後の宣教師マンショ小西が殉教

1677年 往古の掟十七ヶ条（鈴法寺からの上申書）延宝の御掟（ 虚無僧寺幕府公認の獲得 ）

1703年 臨済宗寺院（興国寺）との末寺縁組み

1705年 普化宗の縁起の創作(虚無僧×尺八×普化宗)

1779年 虚鐸伝記起稿 1795年（寛政7）京都にて刊行

1792年 慶長の掟書の偽造（鈴法寺）

1865年 大浦天主堂建立 信徒発見の奇跡

1868年 明治維新 浦上の隠れキリシタン3394人流配

1871年 岩倉使節団 出発（1873年 帰国）

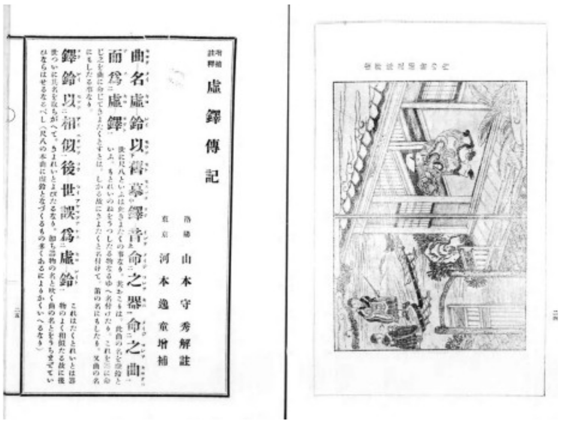
1873年 禁教高札が撤去

1881年 明治政府が普化宗解体

３．虚鐸伝記国字解・慶長之掟書

虚鐸伝記国字解 （山本守秀著）

1779年（安永8）起稿、1795年（寛政7）京都にて刊行。「虚鐸」とは尺八の異称。『虚鐸伝記』なる漢籍に国文の注解を施した体裁であるが、原典は存在しない。普化宗の起源・歴史、虚無僧の起源・系譜、普化尺八曲の由来などを記す。内容は伝説的で史実とは認めがたい。


増補註釈 虚鐸傳記
洛陽 山本守秀解註
東京 河本逸童増補
曲名虚鈴以得暮鐸音命之器命之曲
面為虚鐸
鐸鈴以相似後世誤為虚鈴

慶長之掟書

1614年（慶長19）に徳川家康によって普化宗に与えられた掟書とされる文献である。普化宗が江戸幕府からの保護を受けていたという根拠となっている。しかし、その原本は江戸幕府にも、普化宗の各派の本山にも存在しない。また、写本も多くあり、形式としては箇条書きになっているが、条目の数は写本ごとに様々で写本とも呼べない偽作も多い。

一、虚無僧（普化宗）に関しては、勇士である浪人の一時の隠れ家であり、守護（警察）も入ることのできない宗門（禅宗）である。よって武家の身分である事を理解すべきである。

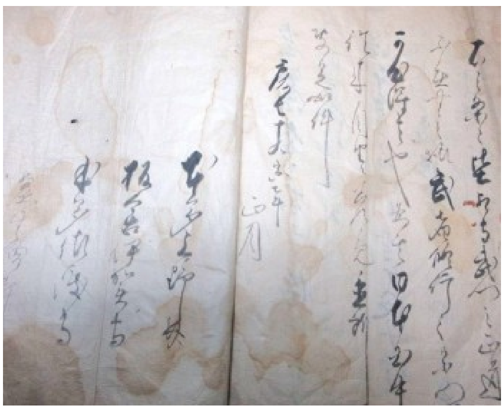
・・・・・

・・・・・

一、虚無僧は、木太刀、懐剣などを心にとめ所持しなければならない。

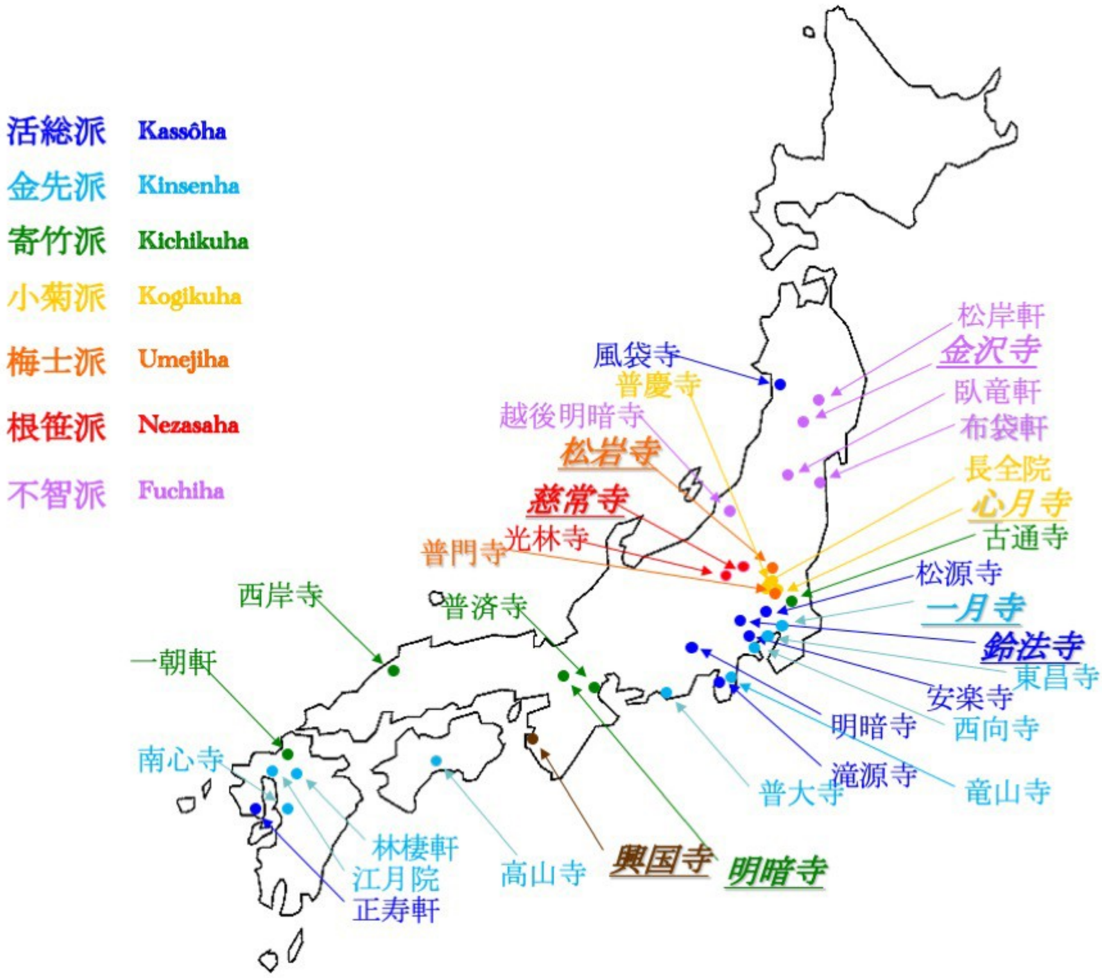
右の一つ一つの条項を堅く守り、武家としての正しい行いを見失わず、武者修行の宗派と心得なければならない。そのため、日本国中の往来を許可する。このように決定した。

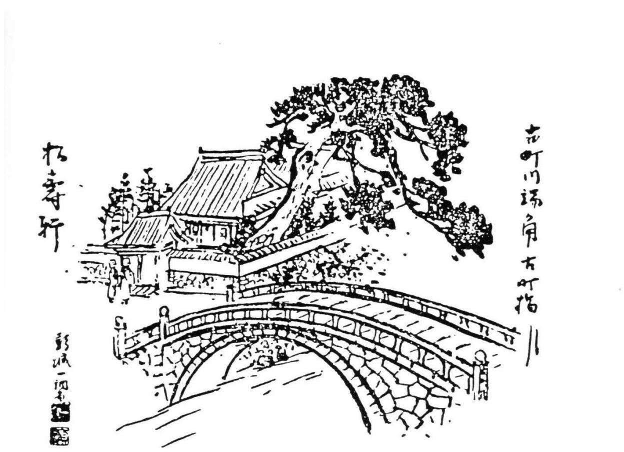
1614年（慶長19年）正月　本多上野介（正純）板倉伊賀守（勝重）本多佐渡守（正信）



４．虚無僧寺

江戸時代初期の慶長～元和期には、虚無僧寺は十六派（金先・奇竹・梅士・不智・養沢・芝隣・義文・隠巴・宗和・錐南・短尺・野木・児派・括総・小菊・根笹）おおよそ百四十ヶ寺あった。元禄～宝暦期に統廃合され七派九十余ヶ寺になった。（出典：尺八修理工房幻海）





長崎正寿軒



南蛮寺

（南蛮図屏風）
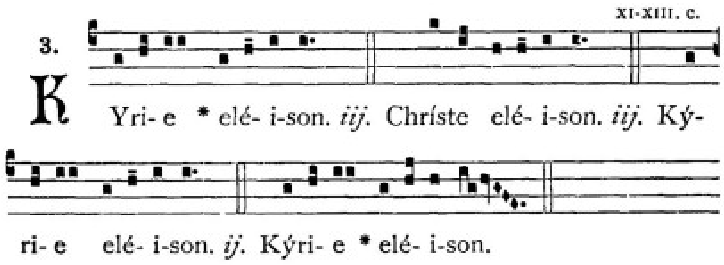
５．古伝三曲

古伝三曲（あるいは三虚霊）は、虚鈴・霧海篪・虚空の3曲を合せた呼称。尺八古典本曲中の最古の曲として最も尊重される。「虚鈴」は、古伝三曲の中で最も古い曲とされる。普大寺伝、琴古流の真虚鈴の他、明暗流の本曲として同名異曲で数種類存在する。虚鐸伝記国字解によれば、中国唐の時代の普化禅師が振った鐸の音を模して、張伯という人物が縦笛で吹いたのが起源とされている。

本曲「虚鈴」＝聖歌「キリエ」？

「キリエ」は聖歌の歌詞として非常に人気があった。226のグレゴリオ聖歌の旋律が残されており、そのうち30は『リベル・ウズアリス』（特によく歌われるものを編纂したグレゴリオ聖歌集）に収められている。もっとも古い形と考えられている聖歌では、同じ旋律が8回繰返された後、その変形が最後に歌われる（すなわち、AAA AAA AAA'の形をとる）。こういった繰り返しは、ローマ数字を用いて、 "iij" （3回）や "ij" （2回）などと示される。『リベル・ウズアリス』に収められるレクイエムミサのための「キリエ」ではこの形がとられている。より後代の「キリエ」では、AAA BBB AAA' や AAA BBB CCC' 、あるいは ABA CDC EFE' など、より複雑な形式をとっているが、ここでも、最終行は常になんらかの変形を施されている。





(A) Kyrie eleison;
(B) Christe eleison;
(A) Kyrie eleison.

６．日本で制作された竹オルガン

キリスト教の教会では、ミサにおいてパイプオルガンが広く使われていいる。日本にオルガンが伝来したのは、1579年、巡察使ヴァリニャーノが口之津へ上陸した際に携えてきた2台のパイプオルガンが最初と言われている。このオルガンは、有馬と安土のセミナリヨに設置された。1590年に天正少年遣欧使節が帰国すると、活版印刷や楽器の制作などの技術を習得してきたキリシタン達により、天草のコレジオでオルガンなどの楽器の制作や楽譜の印刷が始まった。日本で作られた竹製のパイプオルガンは、主要な各地の教会に備え付けられた。

1596年、ポルトガル船長メンデスがセミナリヨを訪れたときの記録。
「噂のように竹のオルガンがあるものならば、自分の眼で見、自分の手で触りたいと(主張し)、それを見、触り、その音を聞いた時、少なからぬ驚嘆を禁じ得なかった」
ゲレイロによる1600年度報告。天草志岐のレジデンシャ（司祭館）の話。
「ヨーロッパのそれよりも、はるかに大きくかつ丈夫な一種の筒である竹の管で幾台かのオルガンを製作した。その竹はフランドルのブリキよりも、もっと美しい音色を持っていた。そして主な教会に備え付けられた」
1601年度報告の記録。長崎のレジデンシャの話。
ローマ出身のパードレの指導によって「種々のオルガン(複数)や各種の楽器が主要な教会のために製作された」
司教セルケイラによる1603年報告。
「彼ら(同宿)は聖堂の聖歌隊や定式に唱い、聖務の執行を助け、単音や複音聖歌、そしてオルガン演奏に成果を挙げている。それらとクラヴォ、ヴィオラ・ダルコその他、現在用いられている楽器の大多数はその製作による」



古楽器製作家 平山照秋 復元制作
天草コレジヨ館 蔵





巡察師ヴァリニャーノが定めた「セミナリヨ内規」 による時間割
04:30-05:00 起床 祈祷 ミサ 清掃
06:00-09:00 ラテン語の勉強
09:00-11:00 食事・休憩
11:00-14:00 日本語の読み書き
14:00-15:00 グレゴリオ聖歌の練習 楽器演奏の練習
15:00-17:00 ラテン語の勉強
17:00-18:00 夕食・休憩
19:00-20:00 ローマ字の勉強
20:00-20:30 聖母の連祷 就寝

７．普化尺八成立プロセスの一考察

わが国におけるカトリックの宣教は、1549年8月15日イエズス会の聖フランシスコ・ザビエルの鹿児島渡来によって始められた。当時交通は極めて不便であったにもかかわらず、イエズス会、托鉢修道会（フランシスコ会、ドミニコ会、アウグスチノ会等）の会員がインド・フィリピン等から相次いで来日し、日本各地に教会、修道院、学校、病院等を設置して熱心に宣教に当った。教会は驚異的発展を遂げ、1614年の統計によれば、聖職者150名、信徒数65万を超え、信徒の中には公卿2家及び大名55名があった。（出典：カトリック中央協議会）

◎ 虚無僧

虚無僧は浪人となった武士だった。徳川幕府が禁教令を出した時も政権の内部には多くのキリシタンが居た。彼らは、脱藩して浪人となり、虚無僧として托鉢修道会の修道僧のような生活をしていたのではないだろうか。セミナリヨやコレジオで学んだキリシタン武士の子供たちは、禁教になった後も隠れキリシタンとして信仰を守り続けたのかもしれない。

◎ 普化宗

表向きは仏教徒になることで信仰を守った武士の隠れキリシタン達は、新たな仏教の宗派を捏造する必要があった。普化宗には仏教としての実体がない。仏教の名を借りた、いわば日本独自の托鉢修道会のようなものではなかったのだろうか。普化宗が臨済宗の一派とされていることにも注目したい。

◎ 虚無僧寺

虚無僧寺には仏教寺院としての実態がない。虚無僧寺は街道沿いにあった。まるで、スペインの巡礼路（サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路）に建つ小さな教会や修道院のようだ。虚無僧は奥州から長崎まで、全国の虚無僧寺を往来していた。往来の目的は何だったのだろうか。虚無僧寺があった場所を見ると、キリスト教の布教地や殉教地が近くにある。司祭役を務めていた虚無僧が訪れて、密かにミサを行ったのだろうか。あるいは、各地にある殉教の地を巡礼していたのだろうか。

◎ 普化尺八

普化尺八の運指は当時教会でも演奏されていたリコーダーと同じである。禁教下でオルガンなどの全ての西洋の楽器は破棄されたが、普化尺八の原型となる楽器は日本にも存在した。竹のオルガンを制作した人たちは、竹の根元の部分を使って尺八を容易に作れたはずである。そして、何より尺八は携帯に便利である。

◎ 古典本曲

隠れキリシタンだった虚無僧は、教会やセミナリヨで習い覚えた聖歌の旋律を尺八で演奏することで、歌うことが叶わない聖歌の代わりとしたのではないだろうか。虚無僧寺で密かに行われていたかもしれないミサの音楽としても演奏されていたのだろうか。